



R I. 第2620地区 静岡第2分區
三島西ロータリークラブ

週報

第2016号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市梅名393-1 ブケ東海三島
TEL(055)984-0120
会長 鈴木 郁夫 幹事 前田 房江



広重版画より 三島 朝霧

第2079回例会

2015.7.9曇

司 会 平出利之君

ロータリーソング
「我等の生業」
指揮 古川喜仁君

会長挨拶 会長 鈴木郁夫君

あらためましてこんばんは。ゲストビジターの皆様ようこそおいでいただきました。心より歓迎申し上げます。

先日5月31日に甲府で行われました、広報IT推進セミナーに参加してきました。その日はちょうど甲府市が全国で一番気温が高い所(35度C)と記録されたまさにその日に甲府に行ってまいりました。少しその時のことについてお話ししたいと思います。

野口ガバナーは今年度の地区目標の2番目にロータリークラブセントラルの利用をあげ、これからの連絡事項はすべてWEBを通じて行われ、ロータリーの活動にはWEBの活用が必須であると話されました。またRI会長賞を受賞するためにはロータリークラブセントラルの利用が必須であるとも話されました。ロータリークラブセントラルは、ロータリージャパンのホームページにあるマイロータリーにログインする、入ると閲覧することができます。各クラブが目標を立て、達成状況を確認するためのオンラインツールで、クラブの現在、過去の状況、未来の目標などのいろいろな項目をクラブの役職に応じて入力することができます。ちなみにRI会長賞を受賞するためには、ロータリークラブセントラルに15以上のクラブ目標を入力し、これは役員が入力します、半期分の人頭分担金を期日まで支払い、「会員への増強維持」「財団への寄付」など6項目のうちから一つを選んで、例えば「オンラインツールの利用」という項目を選べば、クラブ会員の50%以上、西クラブでは25人がマイロータリーに登録し、中学生交換研修制度などの事業の情報をロータリーショーケースに掲載すると、それで、私の理解が間違っていなければ、RI会長賞を受賞できます。またマイロータリーの中にはロータリークラブセントラルだけでなく、「運

営する」「アイデアを広げる」「参考資料」など6つの分野にそれぞれに多数の情報とITツールが含まれています。マイロータリーにログインするためには各会員が事前に登録することが必要です。まず各会員のメールアドレスをクラブ事務局を通じてRIに登録し、会員がマイロータリーにログインする画面で、登録したメールアドレスとパスワードを入力すれば、マイロータリーに入ることができます。西クラブにはITを直接担当する委員会がありませんが、これは私見ですが、基本方針の中にIT推進とうたっているクラブ管理運営委員会に担当をお願いし、また広報IT推進セミナーとあるように、広報とITの利用は切り離せないので広報委員会に協力をお願いできればと思っています。WEBの利用はまだあまりなじみがなく、必要性を感じられない方が多いかもしれませんが、ITの進歩は非常に著しく、どんどん改善され内容も充実していくと思われます。まずできる人、できる所からはじめ、とっかかりを作って、クラブのIT化を推進し、結果としてRI会長賞の受賞につながれば一石二鳥かなと思いました。受賞の有無は別として、次年度以降につながることができればと考えています。この後クラブ協議会がありますが、各委員会の委員長の皆様よろしくお願いたします。

幹事報告

幹事 前田房江君

- ①本日の例会はクラブ協議会です。
- ②第13回日韓親善会議開催のご案内が日韓親善委員会委員長より来ております。出席ご希望の方は登録をお願いします。
- ③国際ロータリー2620地区ロータリー財団山静学友会主催カールスルーエ独日協会より演奏会協力お願いが来ております。
- ④ロータリー創立100周年の記念事業の植林の現況視察に7月15日に行きたいと思っておりますので出席できる方は申し出て下さい。

2015～2016年度
国際ロータリー会長
K.R.ラビンドラン

世界へのプレゼントになろう

クラブ協議会

SAA 平出利之君

〈基本方針〉

三島西ロータリークラブの伝統を継承し、本年度会長の基本方針を踏まえ、和やかな中でも、規律ある例会の運営に努める。

〈活動計画〉

- 1.幹事、親睦活動委員会等、会員相互の連絡を密にし、例会の効率的運営を行う。
- 2.テーブル会は年4回実施する。同時にテーブル配置換えも年4回実施する。
- 3.卓話者の所要時間を事前に把握し、時間厳守に努める。
- 4.例会場変更増加に伴う、携行品等に留意する。

会員増強維持委員会 委員長 花房孝光君

〈基本方針〉

- 1.クラブの活性化、発展のため会員の維持、増強に努める。
- 2.全会員の協力を得ながら候補者情報の収集を進める。

〈活動計画〉

- 1.クラブ広報委員会と協力し、三島西ロータリークラブのホームページを会員にも入会希望者にも魅力的なものにしていく。
- 2.クラブ管理運営委員会と協力し、会員維持のための情報を共有する。
- 3.推薦者と協力して候補者への入会依頼をする。
- 4.候補者の選考審査・職業分類審査をする。
- 5.2620地区年度方針にのっとり、会員の1名の純増をする。

クラブ広報委員会 委員長 遠藤真道君

〈基本方針〉

ロータリークラブに対する一般の方々の認識度を高め、ロータリーに対する愛着心を深めて理解してもらう。

〈活動計画〉

- ①地域におけるイベントに対し積極的に参加する。
- ②ロータリーの友を会社等に置きロータリーの活動を理解してもらう。
- ③週報の空欄を利用してうんちく話を載せる。

クラブ管理運営委員会 委員長 矢野敏夫君

〈基本方針〉

- 1.年間プログラムの作成:クラブ方針に基づき、卓話などのプログラムを作成する。
- 2.出席率の向上を目指す:メーキャップ情報を発信する。
- 3.IT(情報技術)の推進を図るための調査研究をする。

〈活動計画〉

- 1.クラブ方針に基づき、卓話などのプログラムを作成する。
- 2.なるべく多くの会員に卓話の機会をつくるため、近年の卓話実績を参考として卓話者を選ぶ。
- 3.卓話者には事前に確認の連絡をする。
- 4.卓話日程の変更は、1か月前までに委員会に報告することをお願いする。
- 5.年間出席率100%の会員に記念品の贈呈。
- 6.出席率の向上をはかるため、各クラブなどのメーキャップ情報をできるだけ連絡する。
- 7.その他必要に応じ、クラブの効果的な運営を行う。

親睦活動委員会 委員長 宇田川茂君

〈基本方針〉

友人を作り、親睦を深めるというロータリーの原点に沿って、会員及び会員家族をの親睦をさらに深める活動を企画・実施する

〈活動計画〉

- 1.12月の忘年家族例会、6月のサヨナラ例会及び慰労激励会を最大のイベントとして企画実施する
- 2.年三回(9月、11月、4月)の親睦例会は通常の夜間例会と違った親睦例会とする
- 3.年4回のテーブル会を実施し、会員相互の親睦を深める
- 4.その他必要に応じ、親睦を深める活動を行う

ロータリー情報委員会 委員長 勝間田信輔君

真のロータリアンになる為には、ロータリーに入る事が目的ではなく、それは入り口でしかありません。

ロータリーの基本である、綱領・定款・クラブ細則を理解すると共に、ロータリー魂であるロータリー精神を養うことが必要であり、日々の生活や事業活動に於いて、又ロータリー活動に於いて、それを行動の中で実践する事にあります。

情報委員会は、その為に全てのロータリアンに対し、あらゆる機会に於いてロータリーの知識を普及し、支援を行なっています。

職業奉仕委員会

委員長 梶山 豊君

〈基本方針〉

1.職業奉仕はロータリー活動の基本理念で、仕事の重要性が強調され事業及び職業上の高い倫理水準を実践し、奉仕の理念を推進してまいります。

2.会員各位は、自らの職業的知識の向上と相互の理解を深め、実施参加を通じて地域社会に職業奉仕を行う機会を推進してまいります。

〈活動計画〉

1.会員相互の親睦や交流をはかり、職業や奉仕に対する理解を推進する。

2.職業奉仕の理念に基づき、活動計画の立案、予算の概要等を検討する。

3.今期の職業奉仕月間である来年1月は、職業奉仕プロジェクトを実施する絶好の機会です。職場見学会又は例会場にて事業や職務内容等の映像と説明の実施をします。

社会奉仕委員会

委員長 石井良衛君

〈基本方針〉

地域社会への援助、奉仕活動を基本とし、新しい分野への挑戦、文化活動を行うとともに、三島西ロータリークラブの認知度を高める

〈活動計画〉

1、献血運動への協力

2、三島市、清水町と連携した奉仕活動

3、見晴フェスティバルへの参加、協力

4、盲導犬育成事業

5、障害者スポーツを通じての学校教育への協力

国際奉仕委員会

委員長 諏訪部照久君

〈基本方針〉

ロータリーの目的「世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること」に則り国際奉仕委員会は活動を行う。

〈活動計画〉

① 苗栗ロータリークラブとの国際親善活動。

苗栗RC創立45周年記念式典へ姉妹クラブとして出席。

(平成28年3月19日)

② 苗栗交換研修中学生の受け入れを実施。

平成27年11月初旬に準備の打ち合わせを行う。

(平成28年2月中学生来日予定)

③ 三島市国際交流フェアの共催活動。

④ 苗栗東南ロータリークラブ及び酒田東ロータリークラブとの親善交流を促進する。

ロータリー財団米山委員会

委員長 石井 彰君

ロータリー財団

〈基本方針〉

ロータリー財団の使命は、ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることである。このことを会員各位に理解していただき、ロータリー財団へのご支援と協力をお願いする。

〈活動計画〉

ロータリー財団寄付目標を達成するべく会員各位に下記の寄付協力をお願いする。

・年次寄付:地区目標\$120/人・年を目指す。

・恒久基金寄付(ベネファクター):地区目標1名以上を目指す。

・ロータリー財団、地区補助金の取得を目指す。

米山

〈基本方針〉

米山梅吉翁の精神と米山奨学金事業の主旨を理解し、その目的の達成のため努力する。

〈活動計画〉

・米山記念奨学事業への理解をいただき、寄付増進を図る。

・2620地区の目標\16,000/人・年

・米山梅吉記念館行事への参画と賛助金を会員各位にお願いする。

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席正率
前々回	39/47	82.98%	40/47	85.11%
今回	38/44	86.36%	会員総数	49名

欠席者 川名君、窪田君、坂本君、登崎君、藤江君、矢岸君

おめでとう

入会記念日 長田君

スマイルボックス

◆宇田川君、会社も新年度、ロータリーも新年度。新しい出発に頑張ります。

委員会報告

前年度クラブ管理運営委員会

前年度の出席率100%の方をご報告いたします。

ホームクラブ出席率100%

諏訪部照久君 千葉慎二君
佐々木雅浩君 三田明宏君

出席率100%(メークアップ含む)

遠藤正幸君 小野金彌君 勝間田信輔君
栗原達治君 坂本和也君 佐野宏三君
柴崎恵子君 鈴木郁夫君 野田和秀君
橋本裕子君 原久一君 平出利之君
矢岸克行君



ROTARY NEWS

R I 会長メッセージ

私たちはロータリーで、善き行いを目指しています。人類に大きなプレゼントを残した人びとを尊敬しています。大勢の人に人間の尊厳を与えたアブラハム・リンカーン。疎外された人たちに慈悲の心を捧げたマザー・テレサ。虐げられた人たちに平和的な変化をもたらしたマハトマ・ガンジー。彼らは皆、自らが世界へのプレゼントとなって、自分自身を捧げました。

私たちはこれら歴史上の人物から刺激を受け、模範とすることができます。この人生において、自分が大切にする責任をおろそかにせず、どうしたら自らを世界に捧げられるだろうか、と。今年度のテーマを考えているとき、ヒンドゥー教を通じて私が学んだある教訓を思い出しました。それは、スダマの物語です。

貧しい少年スダマは、神の化身として王家の一族に生まれたクリシュナの親友でした。2人の少年は、成長するにつれて少しずつ疎遠になり、クリシュナが軍を率いる名高き王となった一方で、村人スダマはつましい暮らしをしていました。

何年も経った頃、スダマは生活に困り、子どもに食事を与える十分なお金さえなくなってしまいました。妻は、幼い頃に親しくしていたクリシュナに助けを求めよう提案しました。最初は躊躇していたスダマも結局同意し、手ぶらでは申し訳ないと、家族の残りわずかな食糧のお米を布に包んで持っていきました。

スダマを見たクリシュナは大喜びし、親切に愛情をもって迎えました。その高貴な生活ぶりに圧倒されたスダマは、丁寧に包んできたお米さえ粗末に思えて差し出すことができません。クリシュナは「何を隠しているのか」と尋ねました。

布を開いて中の米を見ると、クリシュナは喜んでこれを食べ、思い出話に花を咲かせました。数時間後、変わらぬ友情に感激したスダマは、助けをお願いすることをすっかり忘れてクリシュナの元を去りました。帰り道、スダマは、当初の目的を忘れていたことに気づき、最後の食糧であったお米もクリシュナと一緒に食べ尽くしてなくなっていました。

お腹を空かせた子どもたちが待つ家に帰るのは至極苦痛でした。しかし、自宅に着くと、そこにあったのは、彼が出たときと同じ小屋ではなく、美しい家でした。家の前にはきれいな服を着た家族が立っています。十分な食事を済ませた家族は、スダマを出迎えようと待っていました。

クリシュナには、スダマがありったけの米をプレゼントしてくれたことが分かっていたのです。そのお返しに、クリシュナは、スダマが必要とするすべてを与えました。この逸話の教訓は、受け手にとって大切なのは、その物質的な価値ではなく、贈り主の心がどれだけ込められているか、ということです。スダマの物語のように、私たちがロータリーを通じて捧げることは、いずれは自身のためにもなるのです。私たちには選択肢があります。授けられたものを自分の元だけにとどめるか、またはそれを生かして自らが「世界へのプレゼント」となるか、です。

この機会は二度と訪れません。本ロータリー年度も一度きりです。今を逃さずに生かし、「世界へのプレゼントになろう」をテーマに活動してまいりましょう。

(週報担当:遠藤眞道)